

杜撰で実体のない備え

避難マニュアル

津波～近隣の空き地か公園と記載
それがどこなのか共通理解なし

緊急連絡カード

一度も更新せず、校長先生はカード
を見たこともない

※教育委員会には活用していると報告

引き渡しルール

保護者に一度も周知せず
教員も知らない、訓練もなし

助かる方法は全員が知っていた



↑**体育館裏の山**～傾斜9° 上に貯水槽
マラソンコース脇 平成19年まで椎茸栽培



幅 約4m 広さは十分

↑**校庭脇の山**～低学年の授業で登っている



←校長先生は何度も山から撮影

植樹した山にも行ける(バットの森)

2日前(3/9)の地震の後、津波が来たら山へという会話(校長・教頭・教務)

時間51分 校庭に80数名の子ども 11名の教員

14:46 地震発生 体験したことのない強い揺れ
14:52 大津波警報 指揮台の上のラジオ、防災無線

・迎えに来た保護者「津波が来る、山に逃げて」
・子ども「ここにいたら死ぬ」「山さ逃げっぺ」
・スクールバス 方向転換を済ませていた～ 待機指示

逃げようと強く言えない

もし転んだら？ 子供の言ことだ
もし来なかったら？ 責任とれるか？

子どもを守る組織の機能停止

普通なら

・必ず来る
・まさかここまで来ないだろう
・もしかしたら来るかもしれない

どう考えたとしても

意思決定の遅れ

津波到達1分前まで移動せず

念のため避難



学校管理下で、大津波警報の対応なし
最後はパニックになり判断ミス

子どもの命が最優先だったのか

子どもを守る組織としてどうだったかを検証すべき 検証委員会は踏み込まない

- ・学校経営の理念
- ・ことなかれ主義
- ・子どもとの関わり
- ・平時のコミュニケーション
- ・職員集団の構成
- ・校務分掌
- ・僻地軽視の人事

事後対応

倒木は一本もない 津波1分前に移動

当初の説明

・山は倒木
・12分前に三角地帯へ避難開始

校長は市教委に「引き渡し中に津波」「油断」と報告 '11.3.16

- ・生存A教諭の証言は矛盾点が続出
- ・生存児童からの聞き取りメモ廃棄
- ・二転三転する説明
- ・A教諭から謎のFAX
- ・A教諭のメール削除
- ・説明会打ち切り
- ・「忘れた」「分からない」
- ・実体のない心のケア事業
- ・1年半後の現場検証
- ・担当者の転出

余計なことは答えるなどサインを送る市教委の様子



【検証委員会】

- ・核心に踏み込めず、議論深まらず
- ・事務局と委員が親子
- ・市教委の「忘れた」証言そのまま
- ・不正確な分析、不十分な考察
- ・一般論に終始
- ・欠席者の多さ